

『心に残る文化財子ども塾 一出雲市立多伎小学校』

1. 活動の概要

10月15日(水)、出雲市立多伎小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。まずは職員が石見銀山遺跡についてパワーポイントを使って説明しました。石見銀山遺跡がどのような特徴を持ち、世界遺産になったのか、ということを知ってびっくりしたり、感心したりしていました。加えて、多伎地域と石見銀山との関わりや、たたら製鉄と石見銀山、鉄と銀について比べながら、地元の歴史との関わりについても知る機会になりました。

次に、実物の鉱石や、中世の貨幣のレプリカ、江戸時代の実物貨幣、鉱山道具のレプリカに触れる体験を行いました。鉱石や貨幣・鉱山道具の重さや質感を感じ取りながら、熱心に資料を観察し、職員にもたくさんの質問が寄せられました。

2. 活動の様子

1)石見銀山の歴史について知る



「世界遺産って何？」



「石見銀山はどんなところ？」

2)鉱石・貨幣・道具に触ってみよう



実際にさわってみよう！ 銀鉱石 / 採掘につかった道具 / 銀を使ったお金(丁銀)

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・いろいろな石見銀山でつかう道具や丁銀、銀とかが入っている石をみせてもらって、すごく昔の人たちはたいへんなことがわかりました。
- ・小さな銀をとりだして、大きな貨幣にしているのがすごいなと思った。
- ・昔ながらの家がいっぱいあって、ちゃんとうけつがれていることがわかりました。
- ・世界遺産センターに行ってもっとくわしく世界遺産について知りたい。

2)担任の先生から…

- ・石見銀山は地元島根県にあるけど、実際に行ったことがある児童は少ない。ふるさとの良さを認識したり、歴史の中でどのような役割があったか知るきっかけになったりした。実物に触れることができてよかった。

3)世界遺産室から

実際に石見銀山現地を歩いた経験者は少なかったようですが、身近な地域の歴史ということもあり、熱心に授業を聞いてもらえました。特に地元ゆかりの深いたたら製鉄の学習に取り組んでおられるということもあってか、昔の人たちがどうやって銀を生産していたのか、より深く知ろうとする熱意も感じられました。

鉱石や鉱山道具、丁銀にふれる体験では、それぞれの解説を行った上で、見た目や重さ・質感などを感じてもらい、その場で感想や質問も多く寄せられました。鉱石については、銀や銅がどのように鉱石の中にふくまれているか、熱心に観察し、重さなどの気づきもありました。鉱山道具のレプリカを持ってもらった際には、当時の採掘のたいへんさを想像する声も多くありました。丁銀についても、重さや価値、表面の極印の意味など、実物やレプリカを実際に持って気づいたことから、さまざまなことを学び取ってもらいました。

石見銀山や世界遺産センターに行ってみたいという声も多く寄せられたので、今回の学習を思い出しながら、実際に現地を歩いて石見銀山の魅力を感じ取ってもらえれば幸いです。